

第 33 回健全財政推進区民懇話会 議事要旨

日 時：令和 5 年 2 月 14 日（火）10 時 00 分～11 時 30 分

会 場：区役所本庁舎 4 階 第五委員会室

出席者：座 長 白木 三秀 専門委員（早稲田大学名誉教授・国土舘大学大学院客員教授）

委 員 棚橋 公夫 専門委員（公認会計士）

間瀬 恵二 専門委員（企業経営者：株不二製作所代表取締役会長）

横山 巖 専門委員（企業経営者：東工・バレックス株取締役会長）

江原 春美 区民委員

議事要旨：

- 1 開会
- 2 区長挨拶
- 3 白木座長挨拶
- 4 共生社会ビジョン完成後の取組みについて
- 5 今後の施策と新年度予算について

（区からの説明）

新年度予算については、社会・経済活動が徐々に再開される中、コロナ禍からの回復とさらなる発展を願い、区が目指す「ともに生きるまち」の実現に向けた扉を開く、積極的な投資予算として編成した。

重要なテーマとして「SDGsの推進」、「脱炭素社会実現への取り組み」、「デジタルトランスフォーメーションの推進」の3つを柱としている。

「SDGsの推進」については、「ともに生きるまち」の実現に向けて、「2030年の江戸川区(SDGsビジョン)」に掲げるSDGs17のゴール達成のため取り組んでいく。また、「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」についても、ビジョンの実現を目指して進めていく。

「脱炭素社会実現への取り組み」は、ゼロメートル地帯が広がる本区にとって極めて重要であり、地球温暖化に伴う気候変動を区民の皆様にご自分事として捉えていただけるよう取り組む。

「デジタルトランスフォーメーションの推進」については手続きのオンライン化や、AI・ビッグデータを活用した業務の効率化を進め、「来庁しなくても良い区役所」を実現させていく。

本区においても少子化が進行しており、非常に危機感を覚えている。課題は様々であり、一人ひとりの人生のステージにあわせ、施策を展開することが必要である。また、経済的な支援だけでなく、「人と人とのつながり」の中で支え合いながら子どもを産み育てることができる環境を整備することが、区の役割だと考えている。幅広い世代の共感を得られ、財政的にも持続可能な施策を検討していく。

(主な意見の内容)

日本の人口は減少していくが、魅力ある地域を作り、「江戸川区に住もう」と思ってもらえれば区の人口は増やせるのではないかと。

人口が減少しても昔より元気な高齢者が増えており、働く人口は増えるのではないかと。高齢者が働くことができる魅力的な働き口が必要である。

江戸川区は良いところも多く、「ふるさと」と思える地域だと思う。

独身の時は江戸川区に住んでいても、結婚すると区外へ転出してしまふことが多い気がする。結婚しても住み続けられるというアピールをしていく必要がある。

「子育ての江戸川区」と言われることも多い。少子化への取り組みについては考える余地がまだまだあるのではないかと。

水害については、「ここにはダメです」というハザードマップのイメージが強いが、区は対策もしっかりと進めてきている。そうしたことももっとアピールしていくべきである。

都心にも近いので通勤には便利。しっかり良い面を伝えていく必要があるのでは。

葛西・西葛西には専門学校があり、学生が多いはずだが、街中で若者を見ることが少ない。魅力的なスポットがないのではないかと。

女性に対する支援を増やしていく必要がある。

脱炭素に関しては、顧客からの要求も大きくなってきた。区内企業も社会貢献を説明できるようにしていく必要がある。